

伊丹市地域包括支援センターの役割と令和2年度事業報告

1 地域包括支援センターの役割

本市では、支援が必要な高齢者の住み慣れた地域における生活を支援する地域包括ケアシステムの構築を目指し、基幹型地域包括支援センター1か所、地域型地域包括支援センター9か所を設置している。

| | 役割 |
|---------------|---|
| 基幹型地域包括支援センター | <ul style="list-style-type: none"> ・地域型地域包括支援センターの統括・センター間の連絡調整 ・市全域の支援体制・支援ネットワークの構築 ・支援困難ケース、権利擁護を必要とする事例について、地域型地域包括支援センターへのスーパーバイズや後方支援 ・ケアマネジャー、地域型地域包括支援センター職員の人材育成（研修会、連携会等） ・介護予防の推進 ・認知症ケア施策の推進 ・各圏域と市全体の課題を集約・分析し、生活支援コーディネーターと協働で必要な地域資源等の検討を実施 |
| 地域型地域包括支援センター | <ul style="list-style-type: none"> ・総合相談業務 ・権利擁護業務 ・介護予防事業 ・包括的・継続的ケアマネジメント業務 ・指定介護予防支援事業及び第1号介護予防支援事業 ・地域ケア会議をはじめとする住民や多職種とのネットワーク形成 ・認知症ケアの推進 |

2 令和2年度 地域包括支援センター事業報告

各地域包括支援センターは、「地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とする」（介護保険法第115条の46）に基づき、高齢者が住み慣れた地域で安心して過ごすことができるよう地域における包括的および継続的な支援を行うため、下記の内容に取り組んだ。

1) 地域包括支援センター間の情報共有、連絡調整

地域包括支援センター事業実施計画に基づき、各包括が相互に連携して情報共有を図り、共通認識をもって地域包括ケアシステムを推進することを目的に以下の連携会議を開催した。

| 会議名（内容） | 主な参加者 | 開催回数 |
|--|------------------|---------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・<u>地域包括支援センター管理者会議</u> 各包括の取組状況の確認や課題の共有により業務の標準化を図り、業務推進に向けた連携を促進 | 地域包括支援センター管理者 | 5回（2ヶ月1回） ※5月中止、1月書面開催 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・<u>権利擁護業務報告・レビュー会議</u> 虐待ケースの支援のあり方について、評価・共有するとともに、虐待解消要因の確認及び支援の終結を判断 | 権利擁護業務担当者（社会福祉士） | 10回（月1回） ※4.5月中止 |

| | | |
|---|---------------------------------|-------------------------------|
| ・ケアマネジャー支援会議 ケアマネジャーへの支援の具体的検討と取 組み状況の共有・評価・情報交換 | ケアマネジャー支援 担当者 (主任介護支援専門員) | 6回(2ヶ月1回) ※4月中止、 3月臨時開催 |
| ・介護予防事業連絡会議 介護予防推進に向けた一体的な取組みの具 体的検討と取組み状況の共有・評価・情報交 換 | 介護予防事業担当者 (保健師・看護師) | 5回(2ヶ月1回) ※4月中止、 8月書面開催 |

2) 総合相談・権利擁護業務

(1) 総合相談

基幹型包括支援センター及び地域型包括支援センターが関係機関と連携しながら必要な情報収集を行い、介護保険サービスをはじめとした制度の利用や関係機関・地域資源につなぐ等、高齢者等への総合的な支援を行った。

① 総合相談件数

| 年度 | H30年度 | R1年度 | R2年度 |
|-----------|--------|--------|--------|
| 相談者の実件数 | 12,185 | 13,623 | 14,686 |
| 相談内容の延べ件数 | 15,104 | 17,541 | 18,454 |

② 相談者の内訳

| 年度 | 本人・家族等 | 地域住民 | 地域包括 | 介護支援専門員 | 関係機関 | その他 | 合計 |
|-------|--------|-------|-------|---------|-------|-----|--------|
| H30年度 | 4,628 | 1,345 | 1,307 | 2,483 | 2,117 | 305 | 12,185 |
| R1年度 | 5,457 | 1,236 | 1,443 | 2,916 | 2,313 | 258 | 13,623 |
| R2年度 | 5,930 | 952 | 1,314 | 3,567 | 2,667 | 256 | 14,686 |

※関係機関…行政関係機関、警察、高齢者及び障害者施設、児童関係機関、医療機関等

③ 相談内容の延べ件数

| 相談内容 | | H30年度 | R1年度 | R2年度 |
|--------------|-------------------------|-------|-------|-------|
| サービス関連 | ①介護保険・総合事業サービス等 | 4,308 | 4,959 | 5,584 |
| | ②ケアマネジメントに関する事 | 798 | 1,256 | 1,152 |
| | ③保健・福祉サービス(介護保険外)に関する事 | 366 | 412 | 440 |
| | ④医療受診・リハビリ・看護等に関する事 | 670 | 924 | 1,087 |
| | ⑤住宅改修、改造及び福祉用具等の活用に関する事 | 411 | 555 | 645 |
| | ⑥地域の社会資源活用に関する事 | 257 | 212 | 141 |
| | ⑦障害福祉サービス等に関する事 | 95 | 123 | 105 |
| | ⑧サービスの苦情・要望等 | 71 | 82 | 63 |
| 介護生活 相談関連 | ①福祉施設等の入退所 | 529 | 522 | 639 |
| | ②医療機関の入退院 | 809 | 1,124 | 1,263 |

| | | | | |
|--------|--------------------|--------|--------|--------|
| | ③生活支援に関すること | 1,571 | 1,581 | 1,501 |
| | ④介護予防に関すること | 173 | 112 | 48 |
| | ⑤認知症に関すること | 1,114 | 1,123 | 1,110 |
| | ⑥生活困窮に関すること | 150 | 152 | 154 |
| | ⑦介護相談（介護方法等） | 72 | 57 | 58 |
| | ⑧安否確認 | 269 | 205 | 195 |
| | ⑨家族支援に関すること | 453 | 491 | 609 |
| | ⑩近隣トラブル | 246 | 219 | 144 |
| | ⑪支援拒否 | 59 | 72 | 45 |
| 権利擁護関係 | ①高齢者虐待に関すること（疑い含む） | 1,752 | 1,985 | 2,143 |
| | ②消費者被害（第三者、悪質商法含む） | 33 | 83 | 39 |
| | ③日常金銭管理や財産管理等 | 316 | 369 | 372 |
| | ④成年後見制度の利用支援等 | 170 | 264 | 292 |
| | ⑤権利擁護全般 | 38 | 67 | 63 |
| その他 | | 374 | 592 | 562 |
| 相談内容合計 | | 15,104 | 17,541 | 18,454 |

（２）高齢者虐待への対応

高齢者等に対する虐待の予防及び早期発見に努めるとともに、虐待ケースが発見された場合には市地域・高年福祉課と基幹型包括支援センター、地域型包括支援センターが連携し、速やかにコアメンバー会議（支援方針決定会議）を開催することにより、必要な対応を検討し高齢者本人や家族に対する適切な支援・継続的な見守りにつなげるよう取り組んだ。

① 虐待の新規相談・通報件数

| | 合計 |
|-------|-----|
| H30年度 | 107 |
| R1年度 | 148 |
| R2年度 | 126 |

令和2年度の虐待の相談・通報件数は126件（令和1年度からは、虐待でないと判断した件数も含む）。実態把握の結果、虐待を受けたと判断した事例は94件、虐待疑い事例は27件、虐待でないと判断したものが5件あった。

② 虐待の種別・類型件数（複数回答）

| | 身体的虐待 | 介護等放棄 | 心理的虐待 | 性的虐待 | 経済的虐待 | 合計 |
|-------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|-----|
| H30年度 | 67(52.3%) | 11(8.6%) | 38(29.7%) | 0(0%) | 12(9.4%) | 128 |
| R1年度 | 86(47.5%) | 13(7.2%) | 69(38.1%) | 0(0%) | 13(7.2%) | 181 |
| R2年度 | 64(41.8%) | 16(10.5%) | 56(36.6%) | 1(0.6%) | 16(10.5%) | 153 |

③ 被虐待者・虐待者の属性、虐待の要因

令和2年度の高齢者虐待の状況として、被虐待高齢者のおよそ7割は女性、夫からの虐待がおよそ4割、次いで息子からの虐待が3割となっています。

また、被虐待者側の要因として、身体的自立度の低さ、認知症状などが上位を占め、一方、虐待者側の要因は、被虐待者に対する理解力の不足や低下、介護力の低下や不足が上位を占めています。

※ 新規相談件数の126件のうち、虐待でないと判断した5件は除く。また、新規相談件数121件に継続支援のうち、市内転居3件を加え、新規支援件数は124件(②)である。

④ 包括別虐待件数

| | ① 継続支援件数 (R1年度末) | ② 新規支援件数 | 新規支援件数の虐待種別・類型 (複数回答) | | | | | ③ 終了件数 | ④ 継続支援件数 (R2年度末) |
|------------------------------------|---------------------|----------|--------------------------|-------|-------|------|-------|--------|---------------------|
| | | | 身体的虐待 | 介護等放棄 | 心理的虐待 | 性的虐待 | 経済的虐待 | | |
| 天神川・荻野 (伊丹荒牧テ「イサービ」センター内) | 42 | 12 | (3) | (0) | (8) | (0) | (3) | 22 | 32 |
| 稲野・鴻池 (特別養護老人ホーム桃寿園内) | 13 | 12 | (6) | (1) | (5) | (1) | (3) | 14 | 11 |
| 伊丹・摂陽 (ケアハウス型看護小規模多機能居宅介護さくら内) | 47 | 20 | (11) | (2) | (8) | (0) | (2) | 20 | 47 |
| 笹原・鈴原 (ラストホール内) | 41 | 14 | (8) | (2) | (8) | (0) | (0) | 12 | 43 |
| 花里・昆陽里 (特別養護老人ホーム伸幸苑内) | 12 | 21 | (9) | (3) | (11) | (0) | (2) | 7 | 26 |
| 桜台・池尻 (特別養護老人ホームあそか苑内) | 22 | 15 | (5) | (4) | (5) | (0) | (2) | 14 | 23 |
| 神津・有岡 (特別養護老人ホーム協同の苑ケイザン・ときめき内) | 33 | 8 | (6) | (1) | (4) | (0) | (1) | 12 | 29 |
| 緑丘・瑞穂 (在宅複合型施設ぐる〜りあ内) | 30 | 10 | (6) | (2) | (3) | (0) | (2) | 17 | 23 |
| 南 (特別養護老人ホームアリス千歳内) | 14 | 12 | (10) | (1) | (4) | (0) | (1) | 9 | 17 |
| 計 | ① 254 | ② 124 | (64) | (16) | (56) | (1) | (16) | ③ 127 | ④ 251 |

$$(① + ②) 378 \text{ 件} - ③ (127 \text{ 件}) = ④ (251 \text{ 件})$$

⑤ 高齢者虐待の予防・防止に向けた地域への普及啓発

高齢者虐待の予防・防止に向けた共通認識を図るため、地域住民やケアマネジャー、事業所職員等を対象に高齢者虐待の予防・防止についての講座や意見交換会を令和元年度から実施した。

令和2年度は新型コロナウイルスの感染予防から、実施予定をしていたが急遽中止したのものもあるが、地域住民・民生委員に対して、2回、延べ20名だった。中止になった講座については、令和3年度以降に再度調整を行っているものもある。

3) 介護予防事業

各地域包括支援センターは、地域住民に向けた介護予防の啓発を目的とした講座の開催や、地域組織において主体的に介護予防に取り組むことへの支援の他、認知症やロコモティブシンドロームのリスクが高い住民への個別支援等を行った。

(1) 一般介護予防事業

① いきいき健康大学

健康・介護予防に関する知識の普及啓発と健康づくりに取り組む動機づけを行うことを目的に開催した。10会場での実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により5会場でのみの開催となった。

| 実施日 | 実施場所 | 参加延人数 | 内容 |
|--------------|------------|-------|---|
| 5月20日・27日 | ラスタホール | (中止) | 講座；認知症関係、フレイル予防、日常生活の困りごとを解決する工夫、感染症について等 講座後；介護予防のための体操 |
| 6月4日・11日・18日 | 東りいたみホール | (中止) | |
| 6月16日・23日 | 伸幸苑 | (中止) | |
| 7月3日・10日・17日 | 東りいたみホール | 35名 | |
| 9月3日・10日 | オアシス千歳 | (中止) | |
| 9月1日・8日・15日 | 伊丹スポーツセンター | (中止) | |
| 10月9日・16日 | サンシティホール | 27名 | |
| 10月13日・20日 | 神津福祉センター | 30名 | |
| 11月12日・19日 | 野間笠松センター | 24名 | |
| 11月13日・20日 | きららホール | 58名 | |

(2) 介護予防活動の推進

地域住民が介護予防を効果的かつ継続的に推進するために、いきいき百歳体操継続支援事業の取り組みを中心に地域組織の支援を行った。

新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛・共同利用施設の休館等で住民が集うことが難しかったため、新たな手法を取り入れる等により介護予防活動の推進に努めた。

① いきいき百歳体操グループ数及び登録者数

いきいき百歳体操のDVDを配布することやZOOMを活用し、ウェブでいきいき百歳体操を週1回行う等、自宅で継続的に体操が行えるための工夫を行った。

また、活動を再開させた各団体を巡回し、活動をする場合の感染予防対策について周知を図り、安全に活動を継続させるため、各団体の状況に応じた支援を行った。

| | H30年度 | | R1年度 | | 令和2年度 | |
|-----|-------|------|-------|------|-------|------|
| | グループ数 | 登録者数 | グループ数 | 登録者数 | グループ数 | 登録者数 |
| 天神川 | 5 | 102 | 8 | 166 | 9 | 193 |
| 荻野 | 3 | 56 | 4 | 70 | 4 | 70 |
| 稲野 | 4 | 85 | 7 | 141 | 7 | 141 |
| 鴻池 | 6 | 119 | 6 | 119 | 6 | 119 |
| 伊丹 | 12 | 216 | 13 | 291 | 13 | 291 |
| 摂陽 | 6 | 157 | 7 | 176 | 6 | 161 |
| 笹原 | 10 | 190 | 10 | 187 | 7 | 142 |
| 鈴原 | 5 | 124 | 6 | 139 | 6 | 142 |
| 桜台 | 3 | 40 | 4 | 128 | 4 | 136 |
| 池尻 | 4 | 136 | 4 | 136 | 4 | 136 |
| 花里 | 5 | 87 | 5 | 87 | 5 | 87 |

| | H30 年度 | | R1 年度 | | 令和 2 年度 | |
|-----|--------|-------|-------|-------|---------|-------|
| | グループ数 | 登録者数 | グループ数 | 登録者数 | グループ数 | 登録者数 |
| 昆陽里 | 8 | 112 | 9 | 125 | 8 | 110 |
| 神津 | 5 | 67 | 5 | 67 | 5 | 67 |
| 有岡 | 6 | 102 | 7 | 115 | 7 | 115 |
| 緑丘 | 3 | 62 | 3 | 62 | 3 | 62 |
| 瑞穂 | 5 | 105 | 5 | 93 | 5 | 93 |
| 南 | 6 | 123 | 8 | 144 | 8 | 150 |
| 合計 | 96 | 1,883 | 111 | 2,246 | 107 | 2,215 |

② 介護予防講座等の開催回数

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言発令期間は、不要不急の講座の開催の呼びかけを控えたため、年間合計開催数は例年と比べると減少した。その代替え策として、POS ネットワーク（市内介護事業所等のリハビリ職の有志団体）と協力し、「いきいき健康新聞」を発行し、自治会回覧を行う等自宅においても実施可能な介護予防の取り組みについて周知を図った。

| 内訳 | 基幹 | 天・荻 | 稲・鴻 | 伊・撰 | 笹・鈴 | 桜・池 | 花・昆 | 神・有 | 緑・瑞 | 南 | 合計 |
|------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|
| 介護予防健康関係 | 0 | 32 | 25 | 17 | 25 | 13 | 19 | 15 | 7 | 16 | 169 |
| いきいき百歳体操支援 | 0 | 32 | 17 | 35 | 3 | 12 | 6 | 5 | 1 | 21 | 132 |
| 制度関係その他 | 1 | 2 | 0 | 0 | 3 | 2 | 2 | 0 | 0 | 6 | 16 |

③ もの忘れ検診及びロコモティブシンドローム検診後のフォローアップ

| | 検診受診者数 | | 「要二次検査」該当者数(A) (受診者数に占める割合) | | (再掲) 両検診ともに「要二次検査」 該当者数 (B) | | (再掲) 一方の検診で「要二次検査」 の該当者数 (C) = (A) - (B) | |
|--------|--------|--------|--------------------------------|------------------|-----------------------------------|-----|--|-------|
| | R1 | R2 | R1 | R2 | R1 | R2 | R1 | R2 |
| もの忘れ検診 | 13,019 | 12,717 | 269 (2.1%) | 265 (2.1%) | 174 | 169 | 2,067 | 1,778 |
| ロコモ検診 | 13,019 | 12,717 | 1,972 (15.1%) | 1,682 (13.2%) | | | | |

| 案内や支援につなげた件数 (c)に占める割合) | | |
|-------------------------|-------------|-------------|
| | R1 | R2 |
| 介護保険・福祉サービス等 | 289 (14.0%) | 247 (14.0%) |
| 講座の案内 | 122 (5.9%) | 55 (3.1%) |
| 地域の集いの場・健康教室等 | 184 (8.9%) | 101 (5.7%) |

もの忘れ検診・ロコモティブシンドローム検診を受診した者のうち、医師が「要二次検査」と判定した方に対し電話等で状況把握を行い、支援を必要とする人の早期把握に努めた。必要に応じて医療機関受診や介護保険制度、介護予防活動等につなげたが、前年度と比較して、「講座の案内」や「地域の集いの場・健康教室等」につなげた件数が減少しており、コロナ禍の影響を受け、身近な地域の集いの場や講座などが休止・中止となったことが介護予防支援にも影響した様子がわかる。

4) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業）

9か所の地域型包括支援センターは、指定介護予防支援事業者として、「事業対象者」及び「要支援1」「要支援2」の認定を受けた人の生活や心身の状態、取り巻く環境等を把握したうえで介護予防サービス・支援計画書（介護予防ケアプラン）を作成し、自立支援に向けた介護予防ケアマネジメントを実施した。

（1）プラン作成件数及び評価実施数

| | 天・荻 | 稲・鴻 | 伊・摂 | 笹・鈴 | 桜・池 | 花・昆 | 神・有 | 緑・瑞 | 南 | 合計 | R1 合計 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|
| 作成人数 | 326 | 258 | 453 | 570 | 287 | 321 | 291 | 291 | 245 | 3,042 | 3,011 |
| 作成数 | 568 | 459 | 792 | 934 | 529 | 545 | 454 | 508 | 423 | 5,212 | 5,128 |
| 評価数 | 341 | 305 | 445 | 542 | 319 | 330 | 247 | 329 | 259 | 3,117 | 3,051 |

（2）評価の状況（件数）

A維持 が2,312件と最も多く全体の74.2%を占めている。B改善 は154件で全体の4.9%であり、A維持とB改善をあわせた利用者が約8割となったことから、適切なケアマネジメントに取り組み、状態悪化の防止を図ることができたと考えられる。

| | 天・荻 | 稲・鴻 | 伊・摂 | 笹・鈴 | 桜・池 | 花・昆 | 神・有 | 緑・瑞 | 南 | 合計 | R1 合計 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|
| A維持 | 246 | 226 | 327 | 410 | 255 | 239 | 180 | 240 | 189 | 2,312 | 2,139 |
| B改善 | 21 | 15 | 18 | 24 | 13 | 22 | 7 | 21 | 13 | 154 | 177 |
| C悪化 | 55 | 54 | 86 | 81 | 41 | 51 | 46 | 57 | 43 | 514 | 583 |
| Dその他 | 19 | 10 | 14 | 27 | 10 | 18 | 14 | 11 | 14 | 137 | 152 |
| E評価なし | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 341 | 305 | 445 | 542 | 319 | 330 | 247 | 329 | 259 | 3,117 | 3,051 |

5) 包括的・継続的ケアマネジメント業務

（1）連携会議等への参加

高齢者の生活支援を継続的に支援するため、認知症対応向上委員会（伊丹市医師会が開催）

や地域密着型サービス事業所連絡会、地域連携担当者連絡会等に参加し、地域の多様な関係機関と連携を図った。

(2) ケアマネジャーへの支援

① 介護支援専門員連携会

市内の居宅介護支援事業所に所属するケアマネジャーの連携体制の強化と相互の情報共有に合わせて包括間および市の関係部署との連携の強化、情報共有の促進を目的として開催した。

| | 内容 | 実施日 | 実施場所 |
|-----|---|------|---------|
| 第1回 | ①介護予防及び介護予防ケアマネジメント業務について ②伊丹市ケアマネジメント支援会議について ③伊丹市自立支援ケア会議について | (中止) | 資料配布 |
| 第2回 | ①事例報告 「ケアマネジャーの気づきと発信から進んだ市営荻野団地の買い物支援について」 ②意見交換会 ③その他連絡事項 | 3月4日 | オンライン開催 |

② 包括的・継続的ケアマネジメント研修等

ケアマネジャーをはじめとする介護サービス事業所職員などの専門職の支援スキル向上を目的とした研修会を開催した。対人援助スキルや制度理解、高齢者虐待防止等の幅広いテーマについて多職種で共通して理解を深める場としている。

| 実施日 | 内容 |
|---------------------------------|--|
| 7月29日 8月13日 9月3日 9月25日 | 地域包括支援センター職員研修 ①伊丹市地域包括支援センターの基礎（高齢者福祉の窓口等） ②高齢者に関わる精神疾患 ③高齢者虐待の基礎と対応 ④高齢者施設について |
| 1月29日 オンライン開催 | 「楽しくみんなでつながろう！！ ～オンラインを活用したこれからのつながり方について～」 講師：コミュニケーションアドバイザー・パソコン講座コーディネーター 波多江 みゆき 氏 |
| 3月4日 オンライン開催 | 多職種連携強化研修 第2回 介護支援専門員連携会との合同開催 ①事例報告 「ケアマネジャーの気づきと発信から進んだ市営荻野団地の買い物支援について」 ②意見交換会 ③その他連絡事項 |
| 3月24日 | 地域包括支援センター職員研修 「気づきの事例検討会」スーパーバイズ 講師：兵庫県介護支援専門員協会 気づきの事例検討会推進 特別養護老人ホームさんすい園施設長 前川 嘉彦 氏 |
| ウェブ配信 | 「高齢者虐待とその対応 ～基礎編～」 講師：伊丹市地域包括支援センター 職員 |
| 2月4日 (中止) | 地域包括支援センター職員研修 「市立伊丹病院 認知症患者医療センター職員との事例検討会」 |
| 3月 (中止) | 「聞こえの研修」 |

③ 伊丹市ケアマネジメント支援会議の実施

<目的>

ケアマネジャーの支援(人材育成)とケアマネジメントにおける地域課題の抽出、必要な資源等の提案(地域づくり)等を目的に、市内居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員と地域包括支援センターが協働した事例検討を開催した。

<出席者>

基幹型・地域型地域包括支援センター、各圏域の主任ケアマネジャー

<開催状況>

市内4エリアに分けて実施(①天神川・荻野、緑丘・瑞穂、②稲野・鴻池、桜台・池尻、③花里・昆陽里、笹原・鈴原、④伊丹・摂陽、神津・有岡、南)

<内容>

(7月) 令和元年度の振り返りと実績報告、意見・情報交換

(9月、11月、1月、3月) 地域包括支援センターと協働で支援した事例の検討会等

<抽出課題と対応策>

- ・ 医療的な質問を気軽にできる場所がほしい。
⇒地域包括支援センターの保健師等への質問・相談や、介護保険課に設置の在宅医療・介護連携支援センターの活用が可能であることの周知
- ・ 認知症や障害について地域住民に理解してもらい、支えあうことが必要。
⇒圏域内の認知症サポーター養成講座等の積極的な開催
- ・ 認知症に関する悩みごとを話せる集いの場や認知症本人の居場所づくりが必要。
⇒認知症カフェの開催状況の共有と、地域住民等による新たな支援に向けた講座開催の推進
- ・ ケアマネジャー同士が情報共有する等の横のつながりの強化が必要。
⇒各圏域で行っているケアマネジャーの交流会の開催方法の再検討

④ 巡回訪問に代わるアンケート形式での居宅介護支援事業所への意見聴取の実施

例年、巡回訪問にて実施している居宅介護支援事業所への意見聴取について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため巡回訪問は行わず、居宅介護支援事業所(市内52事業所)を対象に、ケアマネジメント業務の課題等を調査した結果、様々な意見があった。

<抽出課題>

(a) 介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント関連書類について

- ・ (以前よりも減っているが) 支援経過や評価等の書類が多い。
- ・ サービス内容の変更(プラン変更)のたびに書類の提出が必要であり負担。有効期間の延長はできないか。
- ・ 地域包括支援センターへの書類の提出(紙媒体、毎月)が負担。メールやFAXにする、提出場所を一か所にする等はできないか。

(b)地域包括支援センターからの委託について

- ・利用者に関する情報（困難事例等）を詳しく教えて欲しい。
- ・サービス利用の意向の有無を確認して欲しい。

(c)総合事業について

- ・単位数の計算が1回数と月単位数があり、複雑であるため計算が負担に感じる。
- ・要支援者と事業対象者は自己作成プランを可能にし、利用者向けの研修会を開催してはどうか。

(3) 地域ケア会議

① 個別ケア会議の実施

<目的>

高齢者一人ひとりの個別課題の解決を第一目的とした事例検討及び地域住民と専門職のネットワークの構築

<出席者>

基幹型・地域型地域包括支援センター、生活支援コーディネーター（社会福祉協議会）、本人・家族、民生委員児童委員、地域住民、医療機関、ケアマネジャー、介護保険サービス事業所等

<開催状況>

新型コロナウイルス感染症の影響で、会議の開催が難しかったため、関係機関や本人・家族等との連絡や連携を細やかにしながら、状況確認や支援方針の決定等を実施した。

令和3年度もウェブ会議の実施等、個別ケア会議の代替となり得るものが必要な時に適切に開催できるよう、開催方法について検討する。

| | 天・荻 | 稲・鴻 | 伊・撰 | 笹・鈴 | 桜・池 | 花・昆 | 神・有 | 緑・瑞 | 南 | 合計 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|----|
| R1 年度 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 | 1 | 1 | 1 | 11 |
| R2 年度 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 4 |

② 伊丹市自立支援ケア会議の実施

<目的>

リハビリテーション専門職等がアドバイザーとなり、専門的視点からの意見や提案・助言を行うことで、ケアマネジャーがケアプランを振り返る契機とし、要支援者の自立と生活の質のさらなる向上や自立支援に資するケアマネジメント力の向上

<出席者>

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、歯科衛生士、基幹型・地域型地域包括支援センター、ケアマネジャー、介護保険サービス事業所、介護保険課

<開催状況>

参加したケアマネジャーからは、複数の専門職の多角的な視点からの意見や助言があり、日々の支援の参考になった等の意見があった。

| | 天・萩 | 稲・鴻 | 伊・摂 | 笹・鈴 | 桜・池 | 花・昆 | 神・有 | 緑・瑞 | 南 | 合計 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|----|
| 開催数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 7 |
| 検討事例数 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 0 | 0 | 4 | 28 |

<自立に向けた支援を行うための課題>

- ・本人のできないことに対してサービスの導入を考えるばかりでなく、既存のものを利用しながら、本人のできることを支援することが必要である。
- ・かかりつけ医等の医療的な意見をケアマネジャーが確認できていないことが多い。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人との関わりを持つ機会や場自体が減っており、高齢者の社会活動が少なくなっている。
- ・商業施設や企業にも、高齢者の特性を理解してもらう必要がある。

③ 多職種連携会議（地域ケア推進会議）の実施

<目的>

医療職と介護職等の専門多職種間の情報共有と、主体的な地域課題の抽出・解決に向けた取り組み及び連携

<出席者>

基幹型・地域型地域包括支援センター、医師、歯科医師、薬剤師、リハビリ専門職、ケアマネジャー、民生委員児童委員、介護保険サービス事業所等

<開催状況>

参加する多職種間の顔と顔の見える関係づくりとそれぞれの立場・役割の理解に加え、地域の課題から見えてきたつながりづくりや、見守りにつながるツールの作成などを実施。

新型コロナウイルス感染症の影響のため中止した会議が多かったが、感染予防対策を行ったうえで実施した会議、書面による開催を行った会議もあった。

包括圏域別 多職種連携会議 開催状況

| | 天・萩 | 稲・鴻 | 伊・摂 | 笹・鈴 | 桜・池 | 花・昆 | 神・有 | 緑・瑞 | 南 | 合計 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|----|
| 開催回数 | 1 | 2 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 8 |

6) 認知症ケアの推進

認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続するために、認知症の容態に応じた必要な医療・介護及び生活支援が有機的に連携したネットワークを形成し、認知症の人への効果的な支援体制の構築を目指している。また、認知症ケアの向上を図るための取組みの推進を目的に、医療や介護の関係機関等の連携支援や認知症の人やその家族を支援する体制づくり等に取り組んだ。

(1) 「認知症ケア多職種研究会」の開催

医師及び歯科医師、薬剤師、ケアマネジャーの専門職団体や、地域密着型サービス事業所、民生委員児童委員、認知症等介護者家族会の代表者等、認知症の高齢者に関わることの多い

関係機関等が協働し、伊丹市の認知症ケアにおける課題を共有し、必要な取り組みの検討、資源開発等につなげることを目的に開催している。

また、令和2年度老人保健健康増進等事業「認知症ケアパスの作成と活用の促進に関する調査研究事業」の一環として実施された「認知症ケアパスコンテスト」では、本研究会において作成した「伊丹市認知症おたすけガイド」が全国での優秀賞を受賞した。

(2) 「認知症ケア多職種協働研修会」の開催

医療及び介護に携わる多職種間での情報共有や互いの役割・機能の理解を深める機会として「認知症ケア多職種協働研修会」を開催した。

| 実施日 | 内容 |
|------|---|
| 2月3日 | 認知症の理解と認知症疾患医療センターの役割 講師：市立伊丹病院 認知症疾患医療センター 伊東 範尚氏 |

(3) 「認知症サポーター養成講座」の開催

認知症の人と家族への応援者を養成する「認知症サポーター養成講座」を、市及び地域包括支援センター、キャラバン・メイトと連携し開催した。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、開催依頼の減少に加えてキャラバン・メイトの出務自体も難しい場面もあった(キャラバン・メイトは高齢者に関わる施設に従事している者が多いため)。令和2年度は17回、440人に開催した。

今後、認知症サポーター養成講座を受講した人が、ボランティア等の支え手として実際に地域の認知症の人をサポートできる仕組み作りを検討しており、令和3年度以降は伊丹市社会福祉協議会のボランティア活動センターと協働してステップアップ講座の開催を予定している。

(4) 認知症の理解・啓発

認知症への理解・啓発に関するイベントや研修会、講座を開催する。

| 実施日 | 対象者 | 内容 |
|-------|--------------------|---|
| 9月15日 | 一般市民 | イベント：「認知症の方に寄り添う社会を作ろう in イオンモール伊丹」 内容：認知症VR体験会、相談ブースでの相談受付 (イオンモール伊丹、介護保険課との共催) |
| 3月26日 | 医療・福祉・介護の専門職および関係者 | 研修：たままるまとまる会(伊丹市の多職種連携を深める会)「認知症の方への支援について～認知症地域支援推進員の役割～」 内容：伊丹市における認知症への取り組みについて (認知症地域支援推進員が講師として参加) |

7) 高齢者実態調査の実施

ひとり暮らし高齢者及び要援護高齢者の実態を把握するため、伊丹市民生委員児童委員連合会の協力を得て高齢者実態調査を実施した。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症感染予防の観点から、例年6月に実施していた調査を9月、10月の2か月間行い、調査方法も訪問面接によるものから電話調査による聞き取りを

主として、その他郵送など感染対策を考慮しながら調査を行った。

また、民生委員児童委員との連携により、必要な高齢者等に対して各地域包括支援センターがフォローアップ訪問を行った。

(1) 調査結果

| | ひとり暮らし高齢者数 | | | 要援護高齢者数 | | |
|--------|------------|-------|-------|---------|-----|-----|
| | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 |
| H30 年度 | 7,463 | 2,162 | 5,301 | 1,200 | 336 | 864 |
| R1 年度 | 7,716 | 2,217 | 5,499 | 1,392 | 398 | 994 |
| R2 年度 | 8,397 | 2,397 | 6,000 | 1,323 | 378 | 945 |

※調査対年齢について

H29 年度までは 65 歳以上を対象としていたが、調査の結果から 60 歳代では生活等に不安を感じる人も少なく、また、今後、高齢化に伴い、調査対象者も増えることが予想され、民生委員の負担軽減の点からも調査対象年齢を 70 歳上限に H30 年度から 5 年間で段階的に引き上げている。(R2 年度は 68 歳以上が対象)

(2) 地域包括支援センターフォローアップ訪問件数

高齢者実態調査において、「地域包括支援センター職員等の再訪問の必要性」の問いに対して「訪問が必要」との回答があった件数は下表のとおりであり、実際に再訪問等のフォローアップを行った件数である。

(「訪問が必要」にチェックがあったもののみ)

| 天・荻 | 稲・鴻 | 伊・撰 | 笹・鈴 | 桜・池 | 花・昆 | 神・有 | 緑・瑞 | 南 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|-----|
| 22 | 60 | 21 | 33 | 13 | 56 | 40 | 34 | 9 | 288 |